

■ 今月号の主な内容 ■

P.2▶

【特集】あつまる・つながる
ふじみ野市立博物館オープン

P.6▶

【市職員の給与など人事行政
の運営状況】

P.8▶

【いきいきシニア】

P.10▶

【すくすくクラブ】

P.13▶

【学びの輪】

P.16▶

【情報アクセス】

P.31▶

【みんなのひろば】
【ふじみ野写真館】

P.34▶

【各種相談】
【救急メモ】

裏表紙▶

【歴史さんぽ】

今月号の表紙

「意外と難しい？土器パズル」

9月1日にふじみ野市立博物館がオープンしました。体験学習スペースで、土器の立体パズルを体験することができ、遊びに来てくれた親子が楽しそうに組み立てている様子。

江戸時代に整備された川越街道と大井宿には、主に大名などの身分の高い人が利用する本陣や、一般の武士や民衆が利用する旅籠などが建ち、旅行者はそこで休憩や宿泊をしました。

当時の人や物の移動には、駕籠を担いだり、荷物を背負ったりする人や馬が必要で、江戸幕府や藩は宿に常に人足や馬を備えておくよう命じました。これを伝馬制度と言います。なお、宿だけでは人足や馬が足りない場合は、助郷といって近くの村々からも集められていました。

人足の基本的な役割は次の

宿まで人や荷物を送ること、通常は大井宿から川越まで大和田宿（現在の新座市）まででした。伝馬には「人足札」などと呼ばれる小さな木の札が使われており、人足に役割を割り当てるときや、人足に賃金を払う際に使ったと考えられます。

ひし形の人足札（写真上）には、「一ばん御長持五人の内」「三ばん駕三人」「御扶箱二人の内」などと書かれています。長持は大きい木箱で、衣類などをに入れて運び、駕は駕籠のことです。人を乗せて担ぐ道具でした。扶箱は、主に武士が使っていた道具入れで、外出や旅

行の際にお供や人足に担がされました。

長方形の人足札（写真下）には、「通人足」と書いてあります。通人足は参勤交代などのときに動員され、人足の行程は通常と異なり、川越から江戸まで交代せずに務めなくてはならない重い負担でした。

江戸時代の人々は現代と異なり、幕府や藩から命じられた役目を務める義務がありました。伝馬制度もその一つです。こうした現代との違いを感じながら展示を見てみませんか。

ふじみ野市立博物館

ACCESS

- 大井中央2・19・5
- ふじみ野駅西口から東武バス「大井循環」行きで「文京学院大学前」下車徒歩1分
- ふじみん号Dコース「市民憩の森前」下車
- 午前9時～午後4時30分（月曜日・祝日の場合は翌平日）と年末年始を除く

☎ふじみ野市立博物館

（TEL049・263・3111）



▲人足札

歴史さんぽ

百六三

市立博物館展示紹介シリーズ
「2 陸のみち」
宿場の役割と人足札



市役所案内

市ホームページ URL <https://www.city.fujimino.saitama.jp>

開庁時間 月～金曜日午前8時30分～午後5時15分（祝日・年末年始を除く。日曜日の休日開庁は35ページをご覧ください）

ふじみ野市役所 〒356・8501 埼玉県ふじみ野市福岡1・1・1 TEL 049・261・2611 FAX 049・266・6245

ふじみ野市大井総合支所 〒356・8555 埼玉県ふじみ野市大井中央1・1・1 TEL 049・261・2811 FAX 049・266・6271

ふじみ野市役所出張所 ふじみ野市サービスセンター2階
〒356・0006 埼玉県ふじみ野市霞ヶ丘1・2・7 TEL 049・261・0353 FAX 049・261・0785

2026(令和8)年11月号
市報ふじみ野
No.254
令和8年11月1日発行

12月号は、11月30日(月)から配布します。
市の最新情報やイベントなどをSNSで掲載しています。



人の動き

令和8年
10月1日 現在

人 □▶114,471人(前月比-22)
男=56,386人(前月比-21)
女=58,085人(前月比-1)
世帯数▶56,676世帯(前月比+53)

UD FONT VEGETABLE OIL INK
印刷：日本印刷株式会社